OB･OG 通信

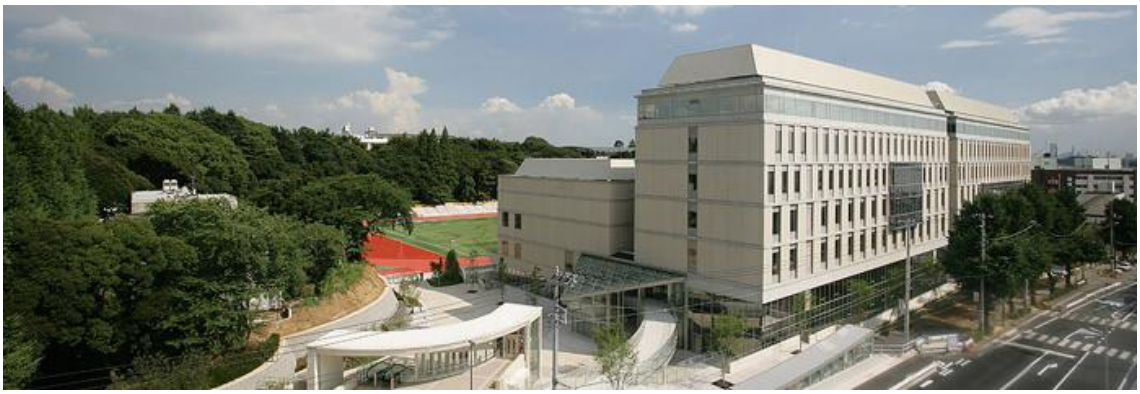
ビジネススクール生活と子育て奮闘記

第 1 期 OB　井上 貴晴

現役時代の著者

10 周年おめでとうございます！ 現在でも，小野晃典研究会は商学部指折りの「エグゼミ」として認知されているのでしょうか？ もしそうであるならば，責任の三分の一は我々1 期生（なかでも S 代表）にあります。現役生の皆さんは大変でしょうが，社会人生活はもっと厳しいですので，試運転だと思ってがんばってください。どうしても辛くなったら，「つるの屋」で「いいちこお湯割り梅入り」を頼むのが良いでしょう。飲んで忘れるというのは，私が社会人生活で会得した，生き延びるための最も高等なテクニックの 1 つです。あっ，「つるの屋」では「キャベツバター」をお忘れなく。これは，もともと裏メニューだったものを，我々1 期生が注文し過ぎて，正式メニューになったという思い出深い代物です。カロリーたっぷりですが，一口食べると病みつきになります。

さて，私事で大変恐縮ですが，8 年間務めたリンクアンドモチベーションを退職し，2011 年 4 月から慶應ビジネススクール（KBS）に通っています。大学時代から，いつかはビジネススクールに行きたいと考えていましたが，30 歳を迎えた節目で決断しました。現在は，朝から晩まで勉学に追われていますが，新たな気づきと知の刺激に溢れ，非常に充実した日々を送っています。KBS での授業はケーススタディが中心で，「自分が経営者だったら，どう意思決定するか」を常に問われます。これだけ自問自答する機会があると，会社を経営してみたくなるので不思議なものです。



著者が通う慶應ビジネススクール（KBS）

KBS に来た最大の収穫の 1 つは，「飲み友達」が増えたことでしょうか。おかげ様で体重は増える一方です。ちなみに周囲からは，ややぽっちゃりとした体型と，悦に入ったプレゼンテーションのために，黒のタートルネックを着た際には，「スティーブン・デブス」と揶揄されております（※ジョブズ氏を敬愛されている方，不快な思いをさせてすみません…）。

やや真面目な気づきを述べると，「マネジメントに唯一絶対の正解はない。それゆえ，自分なりの哲学を持つことが何よりも重要」ということです。これから長い時間をかけて，あせらずじっくりと自分なりのマネジメントスタイルを確立していきたいと考えています。

続いてもう 1 つの話題を。2010 年 10 月に誕生した息子が 1 歳 2 か月を迎えました。子供の成長は早いもので，言葉を少しずつ理解し始めるとともに，てくてく歩きがどんどん上手くなっています。

最近，「妻が抱っこしないと泣き止まない」，「妻には熱烈なキスをするが，私には絶対にしない」，「だけど，よだれと鼻水は私の服で拭く」といった現象が多発するようになりました。自分なりには可愛がっているつもりですが，妻が言うには，「あなたは，自分の好きな時にしか構ってあげてない」とのこと。やはり，食べ物とおもちゃで釣るのは限界のようです。子供は，我々大人が思っているよりも賢いですね。

息子の 1 歳のお祝いにて